



木 木 森

千葉県 TEACCH プログラム研究会

2019年2月24日(日)第100号

「森」字・佐々木正美

イラスト・竹藪伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部 ホームページ：<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS 内 TEL :043-227-8557

平成30年 第5回 連続セミナー (12月16日(日))

『成人期の支援：入所施設における視覚支援の取組』



早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授 梅永 雄二 氏

前半は、ASD 児の抱える不安や特性、学習スタイル、構造化等について、後半は、ノースカロライナでの取り組みについてお話いただきました。改めて構造化の意味を学ぶことができました。ノースカロライナにおける最新の情報では、生活や働き方に違いはあれど、9割の方が自立し、地域の中で生活をしていることに驚きました。「活動できないのは、支援者がヘタ」という言葉はとても胸に刺さりました。自閉症の本人を変えようとするのではなく、自立して行動できるように周りの環境を分かりやすく整えることや合理的配慮をしないことは虐待と同じであるとお話を聞き、目の前の子どもたちの抱える不安について改めて考えていきたいと思います。講義は梅永先生のトークに惹きつけられ、笑いもあり温かな雰囲気の中、本当にあっという間の時間でした。ありがとうございました。大事にしたい点を以下にまとめました。

◇ASD (自閉症スペクトラム症) 児の不安

ASD 児は常に不安を抱えており、感覚刺激の強い子は、さらに不安が強く、定型発達児より多くの社会不安を経験している。集団が苦手であるのに、生活場面では集団生活を強要させることが多いことや成長に伴い、周り自分との違いにも気がついてくることもあり年齢があがるほど社会不安が増えている。問題行動に注目するだけでなく、なぜそのような行動をするのかを仮説をたて、不安の原因を探り、減らすことが問題行動を減らすことにつながる。

◇不安への対処を。構造化を用いて指導する。・・・学習スタイルを知り、個に合わせた構造化が大切。

ASD の学習スタイルを知る・・・三つの重要な用語

- ・中枢性統合 (の弱さ)・・・「木を見て森を見ず」全体を把握する能力が弱い。複数の情報が把握できない。
- ・実行機能 (の困難さ)・・・「先の見通しが持てない」いつ、どこで、何を、どのような手順で行うかを把握する能力は弱い。そのため、衝動的に行動したり、刺激に敏感に反応したりしてしまう。
- ・作業記憶 (ワーキングメモリー) (の弱さ)・・・記憶する能力。記憶はできるが、うまく引き出して使うことが難しい。

構造化とは・・・ASD の人が活動の意味をできるようにする。ASD の人の学習スタイルに合わせていく。

- 物理的構造化→環境の構造化
- スケジュール→時間の構造化
- ワーク (アクティビティ) システム→活動の構造化
- 視覚的構造化→視覚的指示、視覚的組織化 (左から右など)、視覚的明瞭化

ASD の人は、知的には高くても、応用することが難しく、困難さを抱えている。見た目だけでは、何ができないのかわからないことも多いが、私たちが正しく理解できれば困難さをフォローすることができる。構造化で目指すことは定型発達の人に近づけるのではなく、自立し活動しやすいように環境を分かりやすく整え、意味理解につなげることである。構造化は ASD の人にとっての「合理的配慮」である。



(千葉県 TEACCH プログラム研究会ディレクター)

安倍陽子先生の ティータイム



好評連載!

立春を越えたとはいえ、まだまだ寒い日が続いています。皆様、お変わりありませんか？今回、平成 30 年度最後の会、「実践報告発表会」を迎えました。今年度最後であると同時に、平成という時代の最後の会でもあります。次回、新しい元号の基で、どのような年になっていくのだろうか？と思いをめぐらせながら、この最後の締めくくりを書いています。

私事で恐縮です。現在、日本自閉症協会が企画・制作するDVD作成、監修に携わっています。1~3巻の構成で、自閉症の正しい理解とそれに合わせた支援をその3巻の中で伝えていくものです。幼児から成人・高齢者までの幅広い年齢の方々、保護者、支援者が協力をしてくれています。今年度10月に私の職場である横浜市東部地域療育センター通園部のクラス担任と「通園の実践」を発表させていただきましたが、その通園の様子も写っています。皆様に子どもが遊んでいる様子の他、着替えや給食、活動、自立課題を行っている様子などを見ていただくことになるのですが、子どもの最も可愛らしい時代を担当させていただいて幸せを感じています。

さて、何故日本自閉症協会が自閉症支援のスタンダードのDVDを作成しようとしたのでしょうか？恐らく平成の時代が終わろうとしている現在も、まだまだ、自閉症の子どもや大人が周りに理解をされず、幸せな状況下でない可能性があるかもしれない…からですね。ネット環境が発達し、コミュニケーションの絵カード類や課題、グッズ類などを誰もが見て、使える時代になってきているにもかかわらず、それが教育環境や家庭、施設で活かされていないのかもしれませんが。ネットや本で発信して下さっている保護者や当事者の方々の感じ方や生きづらさを知っても、目の前の子ども理解には直接につながらないのかもしれませんが…。自閉症を理解していくことはいかに難しいことなのか、そして大切なことなのか…と繰り返し思い知らされます。

DVDの1巻で年齢の違う子どもから大人のさまざまな暮らしを紹介しています。2巻で自閉症の学習スタイルの理解とアセスメントについて、3巻は支援の実践についてです。構造化、環境やスケジュールを整える事についてなどを学ぶことが出来ます。自立課題に関しては、支援学校教師による初めての取り組みなども勉強になるかと思えます。恐らく来年度遅くならないうちに販売になるのでは？と思えますので、どうぞご期待下さい。

今年度は、内山先生のご講演から始まり、諏訪氏、保護者の中井氏、通園の榊原氏、梅永氏にお話を伺うことが出来ました。そして今回、保護者、特別支援学校の特別支援コーディネーター、成人の支援者の方々からの実践報告が楽しみです。

会員及び非会員の皆様、今年度多くの方々にご参加をいただき、感謝申し上げます。来年度は新しい年に変わったゴールデンウィーク後にお目にかかることとなりますが、どうぞよろしくお願い致します。

～平成31年度 TEACCH プログラム研究会 第6回セミナーのお知らせ～

期日：平成31年度5月11日(土) 13:30~16:30 (13:00受付開始)

場所：千葉県教育会館大ホール(千葉市中央区中央4-13-10)

演題：『自閉症スペクトラム(ASD)の理解と支援』(仮題)

講師：大屋 滋 氏(千葉県自閉症協会会長、旭中央病院脳外科部長)

編集後記：梅永先生は教授もなさりながら、夜間で大学に通い、学ばれているということを講義で拝聴しました。忙しさは理由にならないことを改めて痛感し、食欲に学び続ける姿勢が大事であることを学びました。安倍先生に紹介していただいたDVDの発売もとても楽しみです。彼らの抱える不安を少しでも軽減し、「大人になって幸せになること」を目指して、目の前の子ども達と関わっていきたいです。(二階堂)